平成 23 年 3 月 31 日

私立大学図書館協会
国際図書館協力委員会
委員長　白井　文子様

東京都新宿区１－３
東京理科大学神楽坂図書館
本間　通正

2010 年度海外認定研修報告

平成 23 年 2 月 28 日に 2010 年度海外認定研修として申請しましたところ、採択頂きましたので、別紙のとおり報告いたします。

2010年度私立大学図書館協会海外認定研修報告書

1. 動機

「あらたな海外研修」として本年度設立された私立大学図書館協会海外認定研修は、従来の海外の図書館を調査することを主目的に旅行を計画するのではなく、パックツアー等の海外旅行の機会を生かして、現地の図書館を調査し報告する制度である。その趣旨から、これまでより敷居の低くなった研修制度となっている。

2月に私的にドイツへ旅行することになったことから日程に組み込まれた自由時間を利用してこの海外認定研修制度を活用して大学図書館を調査・見学することにした。

2. 調査・研修のテーマ

ドイツのハイデルベルグ大学図書館にある写本の見学と図書館実情を調査する

3. 訪問先

ルプレヒト・カール大学図書館（以下ハイデルブルク大学図書館）

4. 訪問日程

2011年2月20日

5. はじめに

私の勤務する東京理科大学は、1881年（明治14年）に創立し、130年近い歴史がある。図書館は、1928年（昭和3年）に21名の設立者の1人の個人蔵書が寄贈され、それが元となっている[1)]。現在は各キャンパスを合わせて100万冊近い蔵書があるが、それらは、戦争等の歴史をくぐりぬけて収集、保存されてきたものである。理科系大学の為、現在は図書より電子ジャーナルやオンラインデータベースの購入費が多くなっており、仕事の多くが、これら電子資料の収集に関する予算獲得や選定、業者との交渉を占めている。また、新しいキャンパスの図書館構想や、組織体制検討など、これからの図書館のあり方なども重要な仕事の１つとなっている。

しかし、私が図書館に勤務し始めたころの仕事を思い出すと、目録カードに読みをタイプし、カードケースに繰り込むことや、カード目録を作ることが主であった。社会の変化や、インターネットに代表されるテクノロジーの進化は、知識を蓄積するための媒体が、紙から電子への変換を促している。これは、古代から続く図書館の長い歴史の中でも、グーテンベルクが活版印刷機を発明し、それまでの手書きで写していた写本から大量印刷時代に図書館資料が変化したときと同じ程の変革と思われる。

今回、私的にドイツへ旅行することになり、この機会を利用してドイツの図書館を見学し、その歴史を調べたいと思い立ったのは、職場での未来志向の仕事に対して、中世に大学が発祥したヨーロッパの大学図書館、そして普段は見

ることが出来ない写本や手稿等を見学することで、少し立ち止まって、別の視点（歴史）から図書館というものを捉えなおす機会を得たいと思ったからである。

旅行の日程とホームページ等での事前調査の結果、有名なマネッセ写本を所蔵している、ハイデルベルク大学を調査対象とした。

6. 訪問調査

３月２０日は、予定通りハイデルベルク市庁舎のあるマルクト広場で自由見学となったので、そこから大学広場まで行き、学生さん(?) に道を尋ね、ハイデルベルク大学図書館にたどり着いた。事前にネットで調べたときに写真を見ていたが、実際に目にする建物正面の外観は、壮観であった。1905 年に建築されたのだが、先の第 2 次世界大戦でも破壊をまぬがれた。

（ハイデルベルク大学図書館正面：荘厳な趣）

図書館の正面玄関より２階に上がると写本（レプリカ）は、廊下中央のガラスケースに納められており自由に見学することが出来た。[2)]

（マネッセ写本：色合いが鮮やか）

（2010 年 10 月 26 日から 2011 年 2 月 20 日までの展示会案内）

外観だけでなく、内部の廊下や階段等は、歴史を感じさせるが、コンピュータ端末のある部屋などは、現代的に改装されていた。紹介もなく訪れたたことと、プライバシーの観点から利用者や内部の撮影は出来なかった。

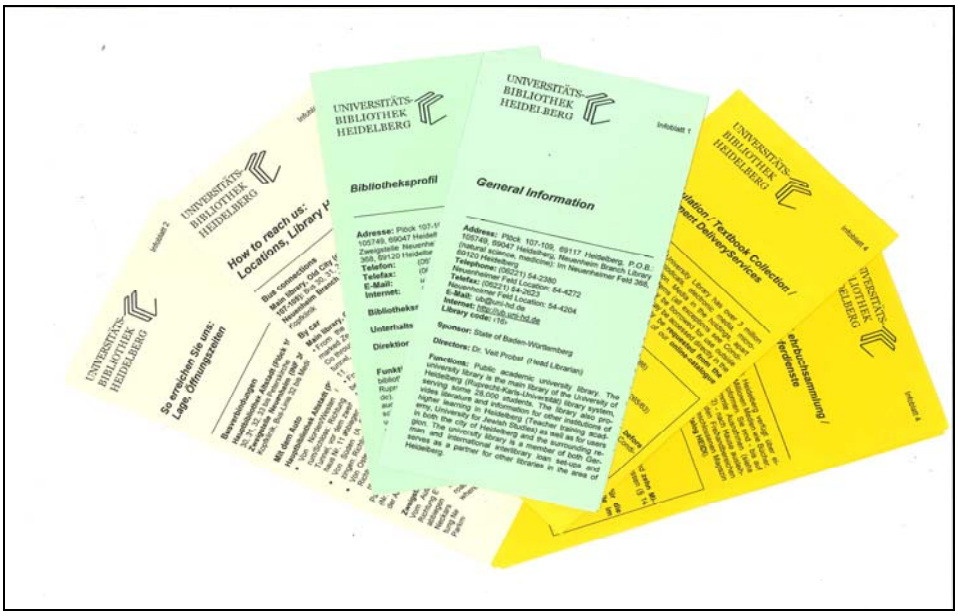
（マルチメディアセンター（PC 端末、AV メディア等）：端末が並んでいる）

（マルチメディアセンターの掲示：喫煙、鞄、飲食物の持ち込み禁止の表示がある）

自由時間があまりなかったので、図書館に備えてあったパンフレットのいくつかを貰い、図書館を後にした。

7.　帰国後の調査

持ち帰ったパンフレットを調べると、ドイツ語版と英語版があった。



（中央の英語版パンフレットを訳した。巻末参照）

以下、この概要パンフレット（以下、パンフレット）と他の資料からハイデルベルク大学図書館の現状と歴史を概観してみる。

図書館の蔵書は、302 万冊。年間受入数は視聴覚、雑誌を含めて 43,500 タイトル。605 席のキャレル（個人机というより個人スペース？）。学生数は 28,000 人。電子資料として、54,000 タイトルの電子ジャーナル、2､000 種のデータベース、電子ブックは 1,900 タイトル。利用者登録には、学生、ドイツ国籍を証明する ID カード、住居証明とパスポートが必要。（閲覧だけなら、自由なようだ）図書カード発行枚数が 40,000 件なので、学生以外の利用者がかなりある。貸出件数が 180 万件と非常に多い。（いずれも 2009 年度の統計）特徴ある収集分野は、エジプト学、古典期考古学、芸術学、中世と近代芸術史（1945 年まで）と 2005 年からは南アジア学である。ドイツには、SSG と略される図書館間の分担保存システムが存在するが、その分担計画に沿って集められている。[3)]

ハイデルベルク大学図書館は 1386 年（約 625 年前）ループレヒト 1 世によって設立された。日本では、南北朝時代で足利義満が 3 代将軍となった頃である。グーテンベルクが活版印刷術を発明したのが、1445 年頃といわれているので、設立当時は修道院で作られていた写本が主な蔵書であったと思われる。そして幾人かの王が諸侯の個人蔵書や教会の蔵書を集めて、図書館のコレクションに加えていった。その結果、有名なパラティーナ文書の基礎が出来あがった。（聖霊教会とハイデルベルク城の蔵書を合わせた蔵書をこう呼んでいる。）

この蔵書は、残念なことに 30 年戦争で略奪されローマ教皇のもとに送られてしまう。1618 年に始まったこの戦争とその後に続くプフアルツ継承戦争によりハイデルベルクは、壊滅的な被害を被る。その結果、ドイツは他のヨーロッパ諸国より 2 世紀は遅れた、と云われるほど、破壊と略奪は凄まじいものであった。[4] 第二次世界大戦においても、安全の為に移送した疎開先の宮殿が、火災にあって蔵書も焼失するなどした。戦争は、人間だけでなく図書館の蔵書についても破壊や、焼失などの悲劇に見舞われることが多い。

マネッセ写本は、プファルツ選帝侯の個人蔵書であったが、流出してパリ王立図書館所蔵となっていたものを 1888 年に買い戻された。[5][6][7] 現在、ハイデルベルク大学図書館のディジタル・ライブラリーで見ることが出来る。見学の際に 2 階に展示されていた写本はその一葉である。

1873 年に専任の図書館司書となったカール・ツァンゲメイスターは蔵書の充実と図書館建築を行った。現在の建物がそれである。図書館パンフレットの歴史の中にループレヒト 1 世などの王と並んで、記載されていることから、相当の実績があった司書と思われる。

近年は、実際に見学したように内部が改修され、書庫の増設や、研究や閲覧スペースの設置、さらに、科学系と医学の学部の新設に伴い、分館も設置されている。

8. あとがき

ハイデルベルクの町並みは、他のドイツの町と同様に住宅は基礎と 1 階が石作りで、2 階から木造となっている。これは、地震がないことと、北海道ほどの緯度であるため針葉樹が多く（成長が遅い）材木が少ないためと思われる。そして、古い建物が、地震にあわずに（第二次世界大戦の被害も少なかった）残っていて、そのことが、歴史ある落ち着いた雰囲気を作り出している。ハイデルベルクの人口は 15 万人ほどであるが[8]、ハイデルベル大学の他にユダヤ人学生の為の専門大学など、多くの教育機関がある、まさしく大学の町である。

ハイデルベルク大学はドイツ最古の大学であるが、世界遺産に認定されてもおかしくない程の外観を備えたこの図書館の前に立つと、ある種の感動を覚えた。また、「過去は未来の為にある」との言葉があるが、この報告書を作成するために、ハイデルベルク大学の過去の歴史を調べたことは、これからの図書館に対する取り組みにプラスとなると思われる。その意味では、この海外認定研修は改めて自分の図書館への取り組みを見直すきっかけになり、有意義であった。

参考文献

1. 馬場錬成（2006）『物理学校』中央公論新社　p.238
2. ハイデルベルク大学図書館ディジタル・ライブラリー（マネッセ写本他、多くの写本を見ることが出来る） URL: http://digi.ub.uni-heidelberg.de/diglit/cpg848
3. 牧村雅史“ ドイツの分担収集システムＳＳＧ計画について”『大学図書館研究』40,　1992, 9, pp29-41.
4. 生松敬三（1992）「ハイデルベルク」講談社
5. カッチイのドイツ旅行案内 “ハイデルベルク大学図書館” URL: http://www.office-danke.com/kachii/heidelberg/6_daigakutoshokan.htm
6. M.UNO ドイツ木組みの家街道 “ハイデルベルク大学　マネッセ写本特別展” URL: http://fachwerk.exblog.jp/14921736/
7. Wikipedia “マネッセ写本” URL: http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%8D%E3%83%83%E3%82%BB%E5%86%99%E6%9C%AC
8. Wikipedia “ハイデルベルク” URL: http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%83%87%E3%83%AB%E3%83%99%E3%83%AB%E3%82%AF

巻末：ハイデルベルク大学図書館概要パンフレット（訳）

ハイデルベルク大学図書館

概要

住所：Plock 107-109, 69117 Heidelberg, P.O.B:105749, 69047 Heidelberg: Neuenheim Branch Library (natural science, medicine): Im Neuenheimer Feld 368, 69120 Heidelberg
電話：(06221) 54-2380
Neuenheimer Feld Location: 54-4272
Telefax：(06221) 54-2623
Neuenheimer Feld Location: 54-4204
電子メール：ub@uni-hd.de
ホームページ：http://ub.uni-hd.de

機能：公立大学図書館。　この図書館は、ハイデルベルグ大学（ルプレヒト・カール大学ハイデルベルク：公立）の大学図書館で、28,000の学生に利用者サービスを行っています。
　また、この図書館は、ハイデルベルクとその周辺地域のユーザーに対して、高等教育（教師養成学校、ユダヤ人の研究のための大学教育の文献や情報を提供しています。
　ハイデルベルグ大学図書館は、ハイデルベルクの他の図書館の為にＩＬＬに関するドイツと海外、両方のメンバーであり、図書館相互協力サービスを提供しています。

スタッフ：170の部門があります。

所蔵資料：302万冊。その中には、1900年に購入した980,000冊（約350,000タイトル）の印刷コレクションを含んでいます。
　約488,000の非図書資料があります。これに加えて、図書館内には、6,800のマニュスクリプト（手稿）、1,800のインキュナブラ（最初期の活字印刷物）および、110,500のサイン本があります。
大学図書館には、11,000タイトルの定期刊行物の受入と約54,000の電子ジャーナル、2,000のデータベースそして1,900タイトルの電子ブックを所蔵しています。

2009年度は、約43,500タイトルの図書、雑誌、ビデオ、マイクロフィルムを受入ました。

中央図書館には、605席の個人机（端末用の130席を含む）ニューヘルム分館には260席（端

末用 40 席含む）があります。

図書館の利用対象者：自由利用閲覧室
学生証、あるいは他のＩＤ証（ドイツ国籍を証明するＩＤカード、居住証明とパスポート等）を提示して、図書カードを発行します。
2009 年現在の発行数：約、40,000 件

2009 年の貸出数：約 180 万件

特徴ある収集分野：プファルツ州とバーデン地方に関して記述のある資料。ドイツ研究協会を通じてカバーされた対象領域-分担収集システム（ＳＳＧ）による収集分野：エジプト学、古典期考古学、芸術学、中世と近代芸術史（1945 年まで)、南アジア。

歴史：
ハイデルベルク大学は 1386 年にプファルツ選帝侯ループレヒト 1 世によって設立され、ウルバヌス六世によって公認された。14 世紀末から 15 世紀初頭には、3 つのライブラリが、大学の一部となって存在していた。図書館は高等教育及び参事会教会（聖霊教会）の、教養学部の蔵書から成っていた。学部図書館のコレクションの中核はもっぱら教授が、大学に残した本から成り立っていた。 1396 年までは、このような方法で大学は 600 冊以上の本を収蔵した。
　1440 年代に、大学は、新しい図書館を建設した。(おそらく 1443 年に完成したようだ)。1446 年、図書館の本の配架と目録が、あまりにも不十分であったことから、大学は、2 つの同一の図書館目録を作成することを決めた。それは、(本に）アクセスするための索引として機能するよう意図された。当時、大学はおおよそ、841 巻、1600 点の作品を所有していた。

学部図書館に加えて、参事会教会（聖霊教会）の図書館は、学術研究のために利用可能であった。ルートヴィヒ III 世（在位 1410-1436）は、諸侯の個人コレクションの遺産を基礎として、この図書館を拡張した。ただし、図書館は、1556 年から 1559 年まで君臨して書籍を収集するために情熱を持っていた選帝侯オットーハインリッヒが、そのほとんどの主要な収集を行った。
ハイデルベルクでの即位のときに、オットーハインリッヒ（プファルツ選帝侯）は、(フリードリヒ 2 世が始めた）ルターの宗教改革を引き継ぎ、大学が完全に改宗されるよう計った。 彼は、ハイデルベルグ城に所蔵されていた本を聖霊教会に移管した。これは、図書館が建設されるまでの一時的な解決策のつもりであった。しかし、この図書館建設が実現しなかったことから、オットーハインリッヒ選帝侯は、２つのコレクションが永久に聖霊協

会に保存されることを遺言で定めた。さらに、彼は、後継者たちが資料の収集を増やせるように、ランクフルトブックフェアで少なくとも年間 50 ギルダーを使って購入することを定めた。そうして、彼は、わずか数 10 年間で世界的に有名なパラティーナ文書の基礎を作った。

1556 年までには、選帝侯の王子の図書目録には 4,800 冊の印刷物、500 冊の羊皮紙の写本および、600 冊の手稿を含めて、約 6400 タイトルがあった。城の図書館の特色は、近代文学のコレクションを反映していた。実質的には、中世や学問的な文学の痕跡はなかった。パラティーナ・文書は、オットーハインリッヒの後継選帝侯フリードリッヒ 3 世の下でアウグスブルクのウルリッヒ・フッガーの本のコレクションを加え、1576 年から 1559 年にかけて飛躍的に増加した。このコレクションには、約 500 冊の羊皮紙、800 冊の手稿、8000 冊の図書が含まれていた。プロテスタントに改宗したフッガーは 1584 年、図書館に彼の蔵書を残した。蔵書はアウグスブルクからハイデルベルクに移管され、聖霊教会内に収蔵された。フッガーの遺産は、パラティーナ文書に北アルプスにあるもっとも重要な図書館としての評価をもたらした。何世紀にもわたってハイデルベルクの図書館を拡大するために行われた注意深く慎重な図書整理は、三十年戦争で破壊された。ハイデルベルクは 1622 年 9 月ティリー将軍に占領された後、バイエルンのマキシミリアン公は以前行っていた交渉を維持するために、教皇グレゴリーXV 世にこのパラティーナ文書を献上した。1623 年 2 月レオーネ・アレッカ(c.1586-1669)により、3,500 冊以上の手稿と 13,000 冊の印刷物をローマに移した（アレッカは文書をローマに移送するためにローマ法王によって任命された）

大学は一時期、カトリック大学であったが、「冬の王」と呼ばれたフリードリヒ５世の息子であるカール１世（在位 1649-1689 年）の下で再建された。再建に続いて、大学は、差し当たり残された２つの図書資料を基に新しい蔵書を築いた。収集は様々な手段で定期的に拡大された。活版職人や博士候補によって図書館内で印刷され収蔵された本も含めて様々な方法を通して定期的に増加していった。残念ながら、再び蔵書は、戦争の犠牲となった。1693 年蔵書はプファルツ継承戦争中に火事で焼失してしまった。

1710 年に図書館は、4200 タイトルを所蔵していたが、1786 年には 12,000 タイトルに増加していった。そして、19 世紀から 20 世紀の変わり目には 20,000 巻の所蔵があったものと推定される。カール・フリードリヒ選帝侯によって公に宣言された 1803 年 5 月 13 日の勅令は、大学図書館の名声を取り戻すきっかけとなった。また、その勅命は、図書館の本を購入するための資金調達を公に宣言した。この勅命の結果、1832 年の蔵書の合計数は、12 万冊に増加した。一方で、多数の本は、（キリスト教の）世俗化の結果として、多くの修道院図書館から収集され、そして、一方のハンドブックはカイザースラウテルンにある元 Cameralistics 大学から（ハイデルベルク大学図書館の）所蔵に加えられた。この本の主な所蔵元は、数万巻に及ぶシトー会セーラム修道院の図書館（元々は、（バーデン）大公（カール・フリードリヒ）の個人的なコレクションであった）でそこから購入したものであった。

1816 年、パラティーナ文書を取り戻るための努力は、部分的に成功した。バチカン市国からは 847 冊のドイツの手稿が、パリからは幾冊かのラテン語とギリシャの作品がハイデルベルクに返還された。
1832 年から 1872 年の間に図書館の蔵書には、個人所有のコレクションから 16,700 巻の本と約 7,200 冊の学位論文とパンフレットが追加された。1965 年、書店経営のニコラウス・トリューブナーの未亡人は、大学図書館に 140 点の写本や版画、2,320 巻の本を寄贈した。1888 年、ストラスブールの書籍販売業者のカール・トリューブナーの交渉の結果、ハイデルベルク大学図書館には、(所有者が) 転々した後、16 世紀の終わり頃にパリの王立図書館に落ち着いていた有名やマネッセ写本を取り戻した。
1873 年から 1902 年に図書館は、初めての専任の司書を採用することで、管理運営に恵まれた。司書の名前はカール・ツァンゲメイスター (1837－1902)、彼は 20 世紀の初めまでに図書館の蔵書を 40 万巻に増加させた。彼の名前は、両方の図書館目録に記されただけでなく、建築家ヨーゼフ・デゥルムによって設計された新しい図書館の建築が 1901 年に彼によって始められ、死後の 1905 年に完成した。
ツァンゲメイスター死後の後も後継者によって、所蔵数は増加し続け、1934 年の蔵書数は 100 万巻以上の量となった。この時点で、新規購入予算が大幅に削減された。しかし、削減されたにも関わらず様々な遺産により、蔵書は増加し続け 1938 年の時点でドイツ帝国最大の図書館であった。
第二次世界大戦中、貴重な蔵書は、安全のために他の場所に移送し保管された。残念なことに、保管場所の 1 つであったハイデルベルクの南ブルッフザールのメッツィンゲン宮殿の火災のため、蔵書は完全に焼失した。加えて、戦争中には、図書館自体の蔵書も略奪や押収の被害にあった。約 40,000 巻の蔵書が、この期間に失われたと推定される。
　戦後、1949 年からハイデルベルク大学図書館は、ドイツ学術助成協会から融資を受け、ドイツの分担収集システム（ＳＳＧ）に参加している。ハイデルベルク大学図書館は、エジプト学、古典期考古学、芸術学と中世と近代（1945 年まで）芸術史、そして 2005 年からは南アジアを担当している。
　旧市街に位置する中央図書館の部分的な修理は、1988 年に完了したが、それは、利用者のために大幅な利用環境の改善がなされた。400,000 巻所蔵の開架書架と閲覧室が設置された。1991 年には、1,200,000 巻を収蔵できる地下の閉架書庫が完成した。また、改修は、図書館に約 590 の研究スペースや個人閲覧室を設けた。1978 年から、ノイエンハイマー・キャンパスの分館は科学と医学の学部が設立されたが、その分館も中央図書館と同様な閲覧室と利用サービスを提供している。

10/2010
http://ub.uni-hd.de